広報 はちまんたい hachimantai
Oct.2012 No.159
平成24年10月４日発行（毎月第１・３木曜日発行）
〒028-7192 岩手県八幡平市大更第35地割62番地
■ホームページ http://www.city.hachimantai.lg.jp
■発行 岩手県八幡平市 ☎0195-76-2111 FAX0195-75-0469
■印刷 株式会社日ゆり
■編集 企画総務部市長公室

八幡平いにしえの宝

（市内の貴重な文化財や自然などを紹介します）

（左）二折れの水柱が深緑に映える七滝（上）滝への降り口には小さな祠がある

七　滝（焼切沢）

所在地　松尾寄木第１地割（県民の森地内）

1941年編纂の『岩手郡誌』（1972年復刻）には、“巌鷲八勝の八”として「赤川は…（中略）焼切澤を下り……松川に合す。その間に七瀑布あり各れも賞するに足る。殊に第六の瀧は雄大にして上下二層に分かれ上瀑は直下二丈……瀧壺より溢れ落つる水は下瀑をなし絶壁に沿ひて下ること八丈…（以下略）」とあり、七つある滝の最も見事な滝に付いた名称のようです。『岩手県管轄地誌』（明治12年編纂）寄木村の項には大滝（現若旗滝）、麻柿滝（現緒ケ瀬滝）と並んで「七ツ滝」として登場します。これより先、江戸期の文献には七滝の名はなく、オカセノタキ（麻柿滝）だけが登場（絵図）していますので、知名度では麻柿滝に遅れをとっていたといえます。しかし、古くから細々と行われていた大地獄の硫黄採掘は昭和に入って硫黄鉱山として具体化し（通称田頭鉱山）、温泉開発なども度々試みられるようになりました。いずれも本格化までには道半ばだったようですが、登山道沿いにあることなどもあって多くの人々の知ることとなり、岩手山の八名所の一つに数えられるようになったようです。

園地となっている高台の一角に質素な祠がありますが、戦前は滝不動の小さな祠が流れのほとりにあったといいます。ここを訪れた人々の感動が信心という形で引き継がれてきたのでしょうか。

鉱山開発などに携わった人々から登山者、観光客まで、訪れる人々のさまざまな思いをのみ込むように、飛沫が舞う滝壺を震わせて轟音が響いています。

（文・市文化財保護審議会委員　畑謙吉）

≪参考文献≫
・南部盛岡藩領内絵図（1854・嘉永七年）
・岩手県管轄地誌（1879・岩手県）
・岩手郡誌復刻版（1972・岩手郡地教委連絡協議会）
・松尾村誌（1989・松尾村）
・湧口と碑（1996・松尾村）

■編集後記

西根中学校から3人の生徒が、職場体験として秘書広報係へやってきました。まだ教えるなんて立場にないのに少し偉そうなことを言ってしまいましたが、子どもたちは素直に聞いてくれました。ぜひまた来てくださいね。▽取材も兼ねてあっぴリレーマラソンに参加。予想以上に体力の低下が激しく、1周しただけでもう走れなくなりました…体力つけなければ。▽広報クイズ分かりやすくするよう気を付けます。（佐々木）

今月の表紙　わたしにも音が出せたよ

第21回幼児のためのミニコンサートが９月20日、岩手大学吹奏楽部を招いて、市総合運動公園体育館で開かれました。

コンサートには、市内の保育所に通う年長の子ら約150人が参加。大学生が演奏する計７曲の音楽を楽しみました。また、演奏の合間には、本物の楽器に触れる企画もあり、みんな音を出すことに夢中になりました。

※広報はちまんたい10月４日号（№159）の印刷経費は１部41円、発行部数は10，400部です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載については、市役所市長公室（☎・内線1213）まで。

この広報は森林認証された紙を使用しています。
VEGETABLE OIL INK